



仙台市立仙台青陵中等教育学校 PTA 便り

第1号

令和3年10月吉日発行

# 青陵サポーター

発行者:PTA 役員会

(代表 小田川 斉)



秋休みも終わり、秋が深まりつつあります。

日頃より PTA 活動へのご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

コロナ禍が長引く中、今年度は制約はあるものの、昨年度は開催を見送った学校行事も少しずつ再開できるようになりました。一日も早くコロナが収束し、日常が戻ることを願っております。

## 保護者の皆様

代表 小田川 斉

今年度も既に折り返し点となりました。ここまでは昨年ほどではないものの引き続き新型コロナに振り回されてしまった半年でした。PTA 活動でもなかなか気軽に集まってということも難しかったですし、学校行事も合唱祭・青陵祭ともに保護者は昨年引き続き観ることができない事態となりました。青陵に入学した生徒が一番楽しみにしているはずのニュージーランド研修も、昨年に引き続き中止が決まりました。今年の5年生は九州研修・首都圏研修も中止になっているので本当にかわいそうとしか言いようがありません。

本来であれば秋には、PTA の研修旅行、それに引き続き環境整備委員会主催の青陵の森散策会も行われているはずですが。市 PTA 協議会が主催して 11 月に行われている PTA フェスティバルには、本部役員が中心となってワークショップの模擬店を出店、広報委員会が学校紹介パネルを出品していますので、本来なら準備を進めているはずですが、今年も WEB 開催となりましたので、参加を見送ることとしました。本当に来年こそは正常な活動ができるようにと祈るばかりです。

先日 1 年生から 5 年生の保護者の方に役員選考委員会から、来年度役員を推薦(自薦を含む)してください、とのお手紙を差し上げております。翌年度の役員選考は各専門委員会・学年委員会から選出いただいた委員からなる役員選考委員会を中心となって選出しています。例年 9 月に第 1 回の委員会を開催して委員長を選出、先般差し上げた候補者ご推薦をお願いするお手紙をお送りしています。

このあと推薦された方の名簿をもとに選考委員会から就任の打診をさせていただくこととなります。スムーズに決まる年があれば、なかなか決まらず選考委員さんが大変苦労される年もあるようです。もし電話がかかってきたら、ぜひお話を聞いていただいて前向きにご検討いただきたいと思います。

打診された方々がまず質問されるのが「どのようなことをやるのでしょうか」ということのようにです。PTA でやっていることがよく分からないというのは、私たち現役員の広報活動が不十分ということでもありますが、ご質問に対しては選考委員さんにお任せではなく私たちも直接その方にお電話を差し上げるなどして疑問点にはお答えするようにしていますので、どんなことでもお尋ねいただければと思います。

私自身は、教養研修委員を 1 年と本部役員を 4 年やらせていただき、来年 3 月に子どもが卒業ということもありますので今年度が最後となります。正直なところ楽しいことばかりではありませんが、多くの方と知り合いになれたり、先生方とお話しさせていただく機会も多いなど得難い経験ができたと思っています。

私の主観ではありますが、やって良かったことをいくつか書いてみたいと思います。

### 1. 子どもとの距離が近くなる

子どもたちがどんな所で日々頑張っているかが分かります。学校の様子が分かってくると、子どもが学校で喜んだり悲しんだり怒ったりというようなことに共感できるようになります。共感できることで距離が縮まったように思います。

## 2. 先生方の頑張りが見える

PTA 担当の先生だけでなく、校長先生・教頭先生はじめ多くの先生と話す機会も増えます。先生方が頑張ってくださっていることも見えてきます。

## 3. 保護者の友だちができる

地域の学校ではないので小学校までの保護者の関係はなくなり、新しく知合いを作ろうにも広い地域から集まっているので作るのが難しいということがあります。色んな活動を一緒にやることでこそ仲良くなれます。何かあった時はお互いに頼ることもできます。いろいろな情報も入ってきます。

## 4. 学校の良いところ、悪いところも含めて青陵が好きになる。

青陵には良いところがたくさんあり、でも悪いところ・足りないところもあります。でも全体として青陵はとても良い学校だなと心から思います。青陵に通っている生徒たちは学校が、青陵が好き、という生徒が多いと思います。子どもが通うこの学校をあなた自身ももっと好きになってみませんか？

## 聖母たちのララバイ

校長 田中 充

今年度は4月から学校をスタートでき、学習活動については1学期中間・期末考査を予定どおりに実施することができた。また、青陵三大祭（体育祭・合唱祭・文化祭）については、何とかミニマムでも実施させてやりたいという先生方の熱意と、大きな制限を受けながらもなんとかやりきるんだという生徒たちの創意工夫で開催でき、成功裏に終えた。学校教育には規律と変化が必要だが、三大祭を経て改めて行事が生徒たちにとって大きなものであることを感じさせられた。

経験のない長期にわたる休業期間、学習保障という名のもとに根拠なく叫ばれるオンライン授業への整備、様々に揺れる政策と情報・・・。「生徒たちが学校に何を求めていると想定されているのだろうか」と逡巡する日々が続いている。

「アウトプットエコノミーからプロセスエコノミーへの転換は脳の欲望の構造から見ても合理的と言える。人間の脳の最大の欲望は、実は消費ではなく学習である。しかも、消費できる量には限りがあるが、学習には終わりがなく、持続可能である。学位というアウトプットだけでなく、人は大学のキャンパスに通い、講義を受け、友人をつくるというプロセスを求めている。」（「プレジデント 2021. 9. 17 号\_茂木健一郎」）

この記事を読み、商品（アウトプット）が手に入ればよいのではなく、オーディション段階から推しメンを決め、アイドルが売り出されるまでのプロセスを楽しむ時代であることに気づいた。学校の教育活動も同じである。例えば、文化祭当日よりもみんな準備するのが楽しいものである。生徒たちは、ある課題の答えを求めに学校に来るのではなく、その課題の答えにたどり着くプロセスを体感するために学校に来るのである。その途中は孤独な場合もあれば、仲間と協力する場合もある。時には、周囲と衝突することもあるだろうが、そこでの試行錯誤が大きな経験になるはずである。各活動に真摯に取り組む生徒たちの姿を見ると、本能としてそのプロセスを必要とし、楽しんでいる。加えて、すでにスキルを持っている生徒が本校にはたくさんいる。「答えのない社会」で生きることになる生徒たちにそのスキルを得る機会を大人は奪ってはいけないと考えている。

しかし、思い起こせば、「聖母たちのララバイ」で有名な岩崎宏美さんもスター誕生という公開オーディション番組をきっかけに1975年に歌手デビューした。「あなたのロングトーンにはカウントが聞こえるからダメよ」と審査員から手厳しく注意されながらも成長する彼女をみながら、全く関係ないけど「おれも部活をがんばろう」と思ったものである。つまり、ずっと前から人が本能的に欲するものは変わらないのであろう。

校長として、あらゆる活動の場面で生徒たちがそんな欲求を大切にできる学校にしたいと考えるに至った1学期だった。

## 仙台市立仙台青陵中等教育学校における GIGA スクール構想の進捗状況について

後期課程教頭 若林 春日

「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて ～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～」というメッセージが令和元年 12 月に文部科学大臣より出されたことは皆様もご存じのことと思います。その後、全国の地方自治体主導で公立小中学校に GIGA 端末（クロームブック）の整備が進められて参りました。本校も仙台市教育委員会の下、前期生徒において 1 人 1 台の端末配備が終わったところでございます。

そして同時に教室の ICT 化も進められており、今年度は 5・6 年生の教室に黒板投影用の単焦点プロジェクターが設置されました。次年度以降、順次他学年の教室にも設置される予定です。

思い返すと、私は令和 2 年 4 月に本校に赴任いたしました。ちょうどコロナウイルスの第 1 波が拡大しており、全国の学校で一斉休業が要請されている最中でした。入学式も始業式も遅れ、当然新任式もない中でしたので、生徒達は長い間、教頭ってどの人？という感じで、私の顔を見ても誰なのか分からない状態が続きました。

その当時、私が最も気掛かりだったことは、青陵生の進学指導・学習指導の遅れでした。大学受験は他の高校の生徒との競争になります。他の自治体では着々とインターネットによる遠隔教育が進められていることが伝わってきます。本校生だけが学習に遅れがあってはならないと考えておりました。その状況を何とかしなくてはという思いとは裏腹に、当時、本校には ICT 環境はほとんど整備されておらず、とても焦った記憶があります。

また、仙台市教育委員会はインターネットに関してセキュリティレベルが非常に高く、自宅にいる生徒との連絡は、電話か郵送しかない状態でした。私は校長とともに何度も何度も教育委員会に ICT の整備とセキュリティの柔軟な運用について交渉しました。折しも、文部科学省より「平常時における学校設置者や各学校の一律の ICT 活用ルールにとらわれることなく《中略》あらゆる工夫を行えるよう対応いただきたいと考えています。」との通達があり、ようやく本校に Google classroom（学習通信アプリケーション）が認められ、生徒と連絡ができる状況になりました。ですから仙台市立学校の中で最初に Google classroom を導入したのは本校となります。その後、仙台市立学校全体に Google classroom、高速 Wi-Fi、GIGA 端末の整備が進められていきました。

最後に、本校の ICT 環境は 1 年前と比べて隔世の感がある段階まで整備されたのですが、まだ道半ばです。これからも本校生徒の進路実現のために、各方面からの協力を賜りながら、着実に進めて参りたい所存です。

### 生徒育成後援会の実績報告

3 年に 1 度の大口補助でクラリネットを購入した吹奏楽部の生徒さんに以下のインタビューを行いました。

Q1：生徒育成後援会（年会費：生徒の各家庭 1 万円/年）をご存じでしたか？部活動後援費（東北大会や全国大会に出場した際の宿泊費や交通費の補助）や部活動施設補助などがあります。

A1：名前は知っていましたが、どんなことをしているのかは知りませんでした。

Q2：今回、部活動施設補助で、吹奏楽部では 3 年に 1 回の大口補助があり、それでクラリネットを購入しました。いかがですか？

A2：コントラアルトクラリネットを見たことがなかったので、これを自分が吹けることに驚きました。今まで吹いていた楽器よりもさらに深く低い音が出てとても格好いいです。

Q3：今後の抱負等をお聞かせ下さい。

A3：新しく購入していただいた楽器の良さを曲の中で生かせるように練習を頑張りたいと思います。

以上となります。

生徒育成後援会では、インタビューにあったような部活動等の補助を行っております。生徒さんもよくわかっていない内容になりますので、各ご家庭からもお子様へ伝えて頂き、より高い目標設定と行動へ繋がればと考えております。

また、令和3年4月の青陵サポーター特別編でも記載しておりますが、「遠征費補助積立金」の余剰金の活用について、コロナ禍で活動が制限されている生徒さんへ何か思い出になる企画などに利用して行きたいと考えております。随時、ご報告いたしますので、よろしくお願い致します。

### 中山バス通りウジェスーパーからの道路の通行についての注意喚起

学校の正門前のから中山のバス通りへ抜ける道のうち、ウジェスーパー中山店から中山市民センター前(ローソンの所)までの区間を、通学時間帯に車両通行止めにするよう共同で関係機関に要請したい、との申し入れが中山小学校のPTAよりありました。

該当する区間は、道幅が極端に狭くなっており、場所によっては車同士のすれ違いも厳しい状況で、歩行者、車の運転者双方にとって非常に気を遣う場所と考えられます。小学校の児童は全員歩いての利用ですし、当校の生徒も歩いて利用している方も多いためです。一方で、車で送迎する方にとっては中山のバス通りから最短距離で学校まで来られますので便利な道路ということも言えます。

当校のPTAとしては、車での利用者も一定数あると考えられるので、一緒に関係機関への要望は行わないこととしますが、送迎等で利用されている方には十分注意し、歩行者優先で運転していただくようお願いしたいと思います。出来れば多少余裕をもって出発していただき、荒巻から登ってきたときは東北電力の研究所前まで行って迂回していただければと思います。よろしくお願い致します。

日々状況が変わる中ではありますが、生徒達がより良い学校生活を送れるよう保護者として出来ることを引き続き模索し、支援していきたいと思っております。

今後とも本校PTA活動にご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

